

(別紙1)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和6年1月30日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) ①山形市役所(六角・荒砥) 長井線 (山形市～長井市)	・利用者が見やすい時刻表を作成し、配布することにより利用促進を図る ・R4.5月に導入し交通系ICカードの普及活動の実施(全路線で共通の取組み)	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・今後も観光地と連携した商品の制作及び販売を継続・強化し、通勤通学客以外(朝夕以外の利用者)の拡大を目指していく。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・路線別時刻表を作成し主要ターミナル・管内のコミュニティセンター・バス車内に置いてPR告知を図った。 ・山形市内の小学校等での乗り方教室を実施した(山形市を経由する路線共通の取組み)。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:13.5人→実績:23.2人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。併せて、路線再編や便数の適正化の検討の際に、得られたデータを活用できるよう検討を進める(全路線に共通する取組み内容) ・今後も観光地と連携した商品の制作及び販売を継続・強化し、通勤通学客以外(朝夕以外の利用者)の拡大を目指していく。
山交バス(株) ②山交ビル(荒谷)天童線 (山形市～天童市)	・利用者増を目指した路線の見直し ・乗車率の低い天童市内の利用促進を図るためバス停周辺の地区において利用促進PRを実施	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・継続して乗降調査結果を分析してダイヤ調整を行い、沿線市町村(山形市・天童市)とともに路線維持に向けた取組みを推進していく。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・経路変更を実施し、利用者の少ないバス停を廃止し、また、住民の要望により経路上に新たなバス停を新設。(R5.4月、10月) ・天童市と運転免許返納者支援策を継続して実施。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:41.5人→実績:42.8人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・継続して乗降調査結果を分析してダイヤ調整を行い、沿線市町村(山形市・天童市)とともに路線維持に向けた取組みを推進していく。

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) ③県立中央病院(表蔵王・四ツ谷)高松葉山線(山形市～上山市)	・山形市と上山市を結ぶ類似系統が多数存在するため、統廃合などにより効率的な運行を図る ・利用者が見やすい時刻表を作成し、配布することにより利用促進を図る	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・類似する系統の統廃合を実施し、煩雑さを軽減。また、病院の外来を考慮し、土日祝日の運行見直しを図った。 ・路線別時刻表を作成し沿線の病院、スーパー、高等学校を中心に配布しPR等を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:12.9人→実績:15.4人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。
山交バス(株) ④山形(若葉町・南山形)高松葉山線(山形市～上山市)	・イオン山形南店のバス停設置の要望がある為、経路変更を検討	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。・沿線の観光施設と連携した取組みを今後も継続していく。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・継続して検討していく。 ・社会福祉協議会と協力して地区住民への乗り方教室等を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■輸送量(利用者数の維持) 計画:56.2人→実績:51.6人 ■達成状況 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあるが、利用状況が伸び悩んでいる。 ショッピングセンターを経由するなど地域住民の生活に一層寄与できるよう経路変更等を検討する	・乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。 ・沿線の観光施設と連携した取組みを今後も継続していく。
山交バス(株) ⑤寒河江駅前(松川・左沢)宮宿線(寒河江市～朝日町)	・利便性向上のためのダイヤの見直しおよび効率的な運行のための日祝の減便を検討 ・沿線沿いの学校に通う学生・住民のための施策を続け、利用拡大を図る	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤ改正でダイヤの変更と利用者の少ない日祝便の運行について見直しを図り便数整理を実施(R5.4) ・路線別時刻表を作成し沿線の病院、スーパー、高等学校を中心に配布しPR等を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■輸送量(利用者数の維持) 計画:17.1人→実績:14.7人 ■達成状況 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあるが、利用状況が伸び悩んでいる。 鉄道駅との接続や通学・通院のニーズを捉えた路線となるよう検討する必要がある。	・通学・通院等の利用が多い重要な路線であることから、沿線近隣市町村とともに利用促進の検討を継続する。

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) ⑥寒河江駅前～谷地線 (寒河江市～河北町)	・利便性向上のためのダイヤの見直しおよび効率的な運行のための日祝の減便を検討 ・利用者が見やすい時刻表を作成し、配布することにより利用促進を図る	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤ改正でダイヤの変更と利用者の少ない日祝便の運行について見直しを図り便数整理を実施(R5.4) ・路線別時刻表を作成し沿線の病院、スーパー、高等学校を中心に配布しPR等を実施した	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■輸送量(利用者数の維持) 計画:27.8人→実績:22.6人 ■達成状況 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあるが、利用状況が伸び悩んでいる。 鉄道駅との接続や通学・通院のニーズを捉えた路線となるよう検討する必要がある。	・通学・通院等の利用が多い重要な路線であることから、沿線近隣市町村とともに利用促進の検討を継続する。
山交バス(株) ⑦山交ビル～寒河江駅前線 (山形市～寒河江市)	・利便性向上のためのダイヤの見直しおよび効率的な運行のための日祝の減便を検討	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤ改正でダイヤの変更と便数整理を実施(R5.4) ・山形県と協力して多子世帯を対象に交通系ICカードを配布。(全路線に共通する取組み)。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:37.7人→実績:42.6人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。
山交バス(株) ⑧天童～寒河江線 (天童市～寒河江市)	・天童市及び寒河江市の公立学校において、当該系統で通学している生徒を対象にアンケート調査の実施	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・R4.10にバスの乗り方教室を実施予定。 ・高校生から聞き取った要望や意見について、取り入れられる内容がないか精査する。) 【事業評価結果の反映状況】 ・計画に記載のアンケート調査を実施した。(R5.8)	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:24.5人→実績:31.0人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・アンケートで聞き取った要望や意見を精査し、ニーズを踏まえて運行内容に反映させていく。

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) ⑨天童(東根市役所)北町線 (天童市～村山市)	・沿線にある村山産業高校・楯岡特別支援学校のためのダイヤや便数について検討 ・効率的な運行のための日祝便の減便を検討	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・今後も沿線市町村(天童市・東根市・村山市)とともに利用促進策等の取り組みを継続して推進する。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・村山市を通じて村山産業高等学校から要望があり、新たに冬期通学ための新規システムを新設した。(R5.1月運行開始) ・運行営業所と協議会を実施し、利用者の少ない日祝便の運行に関して利用状況を確認の上、減便を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:8.4人→実績:12.6人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・今後も沿線市町村(天童市・東根市・村山市)とともに利用促進策等の取り組みを継続する。
山交バス(株) ⑩山交ビル(県立中央病院・高掬)天童温泉線 (山形市～天童市)	・運転免許センター・県立病院の特定ニーズのある路線のため、維持する方向で調整	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・利用者が特定の客層(県立中央病院及び運転免許センター)であることから、便数・輸送量が少ないため、路線の維持に向けた取組みを今後も沿線市町村・県と検討していく。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・山形市等と協議会を開き、時間帯ごとの利用状況の確認を行い、経路見直しについて意見交換を行った。 ・山形市と協力してECO家電購入者に交通系ICカードを配布(全路線に共通する取組み)	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:6.9人→実績:8.7人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・免許センターや病院を結ぶ貴重な路線であり、重点的に見直しを検討であることから、路線の維持に向けた取組みを今後も沿線市町村・県と検討していく。
山交バス(株) ⑪山交ビル(漆山・長岡)天童温泉線 (山形市～天童市)	・利用者にわかりやすくするために漆山経由、長岡経由を1本にまとめた場合のシミュレーションを実施(利用ニーズの高いイオン天童を経由する便を増やす方向で検討中)	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・今後も沿線市町村(山形市・天童市)とともに利用促進策等の取り組みを継続して推進する。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・漆山経由、長岡経由を統廃合し、ニーズの高いイオン天童経由に統一(R5.4) ・バスを身近に感じてもらえるよう、地域の各種イベントに参加した	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:43.9人→実績:53.4人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・経路についてイオン山形北店を経由した経路変更の話もあることから、今後も沿線市町村(山形市・天童市)とともに利用促進策等の取り組みを継続する。

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) 宮城交通(株) ⑫上山～仙台線 (上市市～仙台市)	・R5.12月に道の駅やまがた蔵王が新設されるため、利用者増を目指し経路変更を検討中 ・収益改善を目指す施策を検討	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・企画乗車券などの新商品の開発に向けて取り組む。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・企画乗車券などの商品開発は検討継続 ・道の駅やまがた蔵王を経由するよう経路変更を実施予定。利用拡大のためにホームページ・マスコミ等を利用して告知・PRを行った。 ・適正価格に見合う運賃改定を実施した(R4.10)	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:59.9人→実績:97.6人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・企画乗車券など、仙台圏のお客様の取り込みを目的とした新たなパック商品ができないか検討を継続する
山交バス(株) ジェイアールバス東北(株) ⑬米沢～仙台線 (米沢市～仙台市)	・利用促進のための施策を検討 ・収益改善を目指す施策を検討	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・企画乗車券などの新商品の開発に向けて取り組む。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・企画乗車券などの商品開発は検討継続 ・観光客の利用増と利便性向上を目指し、「上杉神社」停留所を道路上から隣接する商業施設の敷地内に移動等を検討。 ・適正価格に見合う運賃改定を実施した(R4.10)	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:30.6人→実績:59.1人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・企画乗車券など、仙台圏のお客様の取り込みを目的とした新たなパック商品ができないか検討を継続する
山交バス(株) ⑭新庄(東根・作並)仙台線 (新庄市～仙台市)	・ダイヤ、路線の見直しを行い乗車効率及び利用者の利便性を上げていく ・バス待ち環境の整備 ・収益改善を目指す施策を検討	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・企画乗車券などの新商品の開発に向けて取り組む。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・企画乗車券などの商品開発は検討継続 ・利用者の利便性向上を図り、新庄駅西口よりパーク&ライド可能な東口へ乗降場所を変更。(R5.10) ・舟形町の協力によりバス待合所が新設された。 ・適正価格に見合う運賃改定を実施した(R4.10)	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:36.5人→実績:65.5人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・企画乗車券など、仙台圏のお客様の取り込みを目的とした新たなパック商品ができないか検討を継続する

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) ⑮県立病院～金山線 (新庄市～金山町)	・路線再編の検討 ・沿線沿いの学校に通う 学生の利用促進	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・今後も沿線市町村(金山町・新庄市)と協力 して利用促進のためのPR活動を継続する。・ 交通系ICカード利用拡大のための活動を行 う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・県や市町と共に最上地域別分科会を開催 し、県立新庄病院移転や東北農林専門職大 学新設に伴う路線再編を検討。 ・新庄市と通学定期券補助制度を継続して実 施した。また、通学の利便増進に向けたダイ ヤ作成のため、沿線市町村や運行営業所と情 報交換を行った。	A 計画どおり事業は適 切に実施されてい る。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:20.7人→実績:41.4人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、 目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行 もあり、利用状況は回復基調にあ ると考えられる。	・これまでの検討を踏まえ、路線再編を実 施予定(R6年度中) ・今後も沿線市町村(金山町・新庄市)と 協力して利用促進のためのPR活動を継 続する。
(株)新庄輸送サービス ⑯県立病院～肘折線 (新庄市～大蔵村)	・貨客混載便の継続 ・観光利用の促進強化	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・貨客混載便は、実証実験から需要が有り、 高齢化や輸送業の人手不足の状況もあること から継続して取り組む。・地元利用者(通勤・ 通学等)への増進アピールとコロナ禍戻りつつ ある観光客の乗合需要の掘り起こしを行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・貨客混載の継続実施。 ・肘折温泉～新庄間の往復乗車券の販売。	A 計画どおり事業は適 切に実施されてい る。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:12.8人→実績:16.2人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、 目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行 もあり、利用状況は回復基調にあ ると考えられる。	・貨客混載便は、実証実験から需要が有り であることから継続して取り組む。 ・地元利用者(通勤・通学等)への増進ア ピールとコロナ禍戻りつつある観光客の 乗合需要の掘り起こしを行う。
(有)はながさバス ⑰银山線 (尾花沢市～大石田町)	・ホームページを改良し、 時刻検索ができるように し、利用者利便の向上を 図る(令和5年3月まで) ・首都圏からの観光客の 増加を目的としたPR活 動	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・車内に银山温泉のポストカードを配置し、バ スを利用した観光客を対象に配布など、観光 客増加に向けた取組みを検討する。) 【事業評価結果の反映状況】 ・予算の都合により実施出来なかった為、令 和6年度へ持ち越し。 ・令和5年2月に当社HP改良を実施した。 ・県外へのPR活動(山梨県観光フェア参加)	A 計画どおり事業は適 切に実施されてい る。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:16.5人→実績:38.9人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、 目標は達成されている。 地域住民のほか、银山温泉へ の観光客の利用により、目標を大 きく上回っている。	・冬季間の遅延などが生じることから、リ アルタイムの運行情報を発信できるよう 検討する

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
庄内交通(株) ⑱鶴岡 三川線 (鶴岡市～三川町)			A 計画どおり事業は適切に実施されている。	C ■輸送量(利用者数の維持) 計画:25.0人→実績:16.5人 ■達成状況 通院・通学の利用が多い路線だが、長期的には少子化による学生数の減少の影響を受けていると考えられ、目標達成に至っていない。 接続する他の路線を含め、一体的に運行内容を見直す必要がある。	
庄内交通(株) ⑳三川 酒田線(三川町～酒田市)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用実績および地域需要に見合った路線形態の検討協議 ・『つるおか1日乗り放題券』、高齢者定期券『ゴールドパス』の拡販 ・高齢者利用促進のため、イベント開催や地域訪問による告知活動 ・R4.5月に導入した交通系ICカードの普及活動を行う 	<p>【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・引き続き、地域需要に見合った路線形態を沿線自治体と協議し、利便性の高い路線を目指す。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。)</p> <p>【事業評価結果の反映状況】 ・各自治体と問題提起を実施し、令和3年10月1日路線再編を実施。利用実態を調査し、変更や今後の路線の在り方を継続協議。 ・主要観光拠点や地域住民の拠点ヘチラス等の配布。広報への掲載。販促イベントや地域ごとに訪問などにより、告知活動及び乗り方教室を実施。 ・地域連携ICカード『shoko cherica』を導入。わかりやすい運賃表示、支払いの簡素化により、利便性の向上等を周知</p>	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	C ■輸送量(利用者数の維持) 計画:21.7人→実績:14.2人 ■達成状況 通院・通学の利用が多い路線だが、長期的には少子化による学生数の減少の影響を受けていると考えられ、目標達成に至っていない。 接続する他の路線を含め、一体的に運行内容を見直す必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。併せて、路線再編や便数の適正化の検討の際に、得られたデータを活用できるように検討を進める(全路線共通内容) ・地域需要に見合った路線形態とするため、同事業者が運行する他の路線や沿線市町のコミュニティバス等と範囲が重複する部分がないかどうかを念頭に、沿線自治体と協議を行う。
庄内交通(株) ㉑鶴岡 いでは文化記念館 (鶴岡市～旧羽黒町)			A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:26.3人→実績:26.3人 ■達成状況 輸送量実績は計画通りとなり目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月30日

協議会名:	山形県地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本県では、総人口が減少する一方で65歳以上の高齢者数が年々増加する中、平成29年3月の改正道路交通法の施行を契機に自動車運転免許の返納も増加傾向にあるなど、移動手段を公共交通に頼らざるを得ない、いわゆる交通弱者が増加することが見込まれている。</p> <p>一方では、学校、病院、行政機関の再編統合、郊外型大型店舗の進出に伴う地元商店街の衰退等により、県民の生活圏が拡大しており、地域間幹線系統のバス路線は、通院、通学、通勤、買い物等の日常生活を行う上で不可欠な移動手段となっている。</p> <p>しかしながら、少子高齢化やモータリゼーションの進展等により、本県におけるバス利用者数は、この30年間で8割以上減少し、現在も減少傾向に歯止めがかからない状況にあり、バス事業者は極めて厳しい経営環境に置かれている。</p> <p>こうした中で、県民が安心して社会生活を送り、積極的に社会参加でき、活力ある地域へとつながるよう、今後とも複数市町村にまたがる広域的・幹線的なバス系統の確保・維持に努めていく。</p> <p>また、増加傾向にある補助金の抑制を図るため、バス事業者や沿線の市町村と連携し、データに基づく運行の効率化のための路線の再編や便数の適正化の検討、貨客混載等による新たな収益の確保、利用者増につながるモビリティ・マネジメント等の生産性の向上に向けた取組みを推進する。</p>